

認定看護管理者って どんな看護師？

病院技監 米津 苗子 × 看護師長 若杉 妙美
(2020年取得) (2020年取得)



認定看護管理者は、患者さん・ご家族や地域住民に対し、より質の高いサービスを提供できるよう、自身が管理する組織の課題を明らかにし、組織内の様々な部署や人に働きかけて、組織全体のサービス提供体制の向上に取り組み、地域間の連携を図るなど、地域全体の医療・看護の質の向上に努める役割があります。

昨年度末に認定審査に合格し、当院では、2名の認定看護管理者が誕生しました。現在は、病院全体の教育体制や認定看護師が地域に貢献できるよう取り組んでいます。



Yonezu

平成元年、清水病院に入職し現在は看護管理者として勤めています。長い看護師生活の中で、近年感じていることは、医療現場の変化が激しく、厳しい状況が続いていることです。この厳しい時代を乗り越えるために、管理者としてキャリアアップが必要と考え、研修を受講し2020年12月に認定看護管理者の資格を取得しました。認定看護管理者の役割は幅広く、院内全体および地域全体の医療・看護の質向上に努めることです。

清水病院看護部では、2017年から地域の訪問看護ステーション看護師との交流会で情報交換をしています。病院と地域の看護師で連携を強化し、多職種と協力しながら少子超高齢化に向けて、市民の方々が安心できる医療・看護を提供していきたいと思ひます。

住民の皆さまが安心して暮らせるよう
地域と病院を、よりつなげる活動をしていきます。

看護に従事し始めてから30年が過ぎた今、改めて自分の看護や少子超高齢多死社会に突入する日本の現状について多くの知識を学び直したいと考え認定看護管理者教育課程(510時間)を受講させて頂きました。多様なヘルスケアニーズを持つ患者さんやご家族への質の高い看護の提供はもちろんのこと、地域住民のことも考えると共に、看護を提供する看護師が活き活きと働き続けるためには、どうすべきか考え行動したいと考えています。2交代夜勤の導入や認定看護師の活動支援など行い、一人でも多くの方が、この病院の看護師に看てもらってよかったと思えるような看護の環境を整えることが認定看護管理者としての課題と考えています。



Wakasugi

